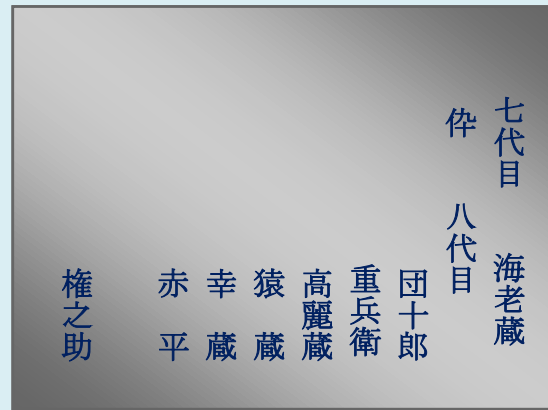


出世稲荷の石灯籠について

出世稲荷の石段を上ると左右に七代目市川團十郎父子が 1852 年奉納した石灯籠がある。左側の石灯籠には八代目團十郎、右側石灯籠には七代目海老蔵と彫られています。この様に彫られている為、プラスチックでそれぞれ八代目團十郎、七代目海老蔵との表示がされています。出世稲荷の右側石灯籠には、七代目海老蔵と彫られているが**七代目 海老蔵**をそのまま七代目海老蔵と解釈するのは間違えである。「七代目 海老蔵と彫られているのは、かつて七代目團十郎を名乗っていた五代目海老蔵」という解釈が正しいと思います。一般参詣者には七代目市川團十郎（五代目海老蔵）と記した方がいいと思います。この様に「七代目 海老蔵」と彫られた石灯籠は他のお寺で見ることが出来ます。1842 年奢侈禁止令により江戸十里四方所払で関西にて芝居をするが妾の「為」が同行していた。七男 赤平は 1845 年に「為」と五代目海老蔵（七代目團十郎）の間に生まれた最後の男子である。彼が生まれた後、奉納した石灯籠には下記のように彫られている。

下の写真（箸蔵寺 seinn さんの写真）は七代目市川團十郎（五代目海老蔵）寄進の一对の石灯籠



- 「七代目 海老蔵」・・・七代目市川團十郎である海老蔵 という意味。「五代目海老蔵」八代目團十郎の父親で、息子に團十郎を譲った後、五代目海老蔵に改名。
- 「伴（せがれ） 八代目團十郎」・・・七代目の長男。天保三年に八代目市川團十郎を襲名。面長で非常な美男子であったため高い人気があった。
- 「重兵衛」・・・七代目團十郎の次男堀越重兵衛。失明により役者を廃業している。
- 「高麗蔵」・・・同じく 三男市川高麗蔵。後の七代目海老蔵。
- 「猿蔵」・・・同じく 四男市川猿蔵。
- 「幸蔵」・・・同じく 六男市川幸蔵。
- 「赤平」・・・初名が「あかんべい」七男で、後の八代目海老蔵、生まれ年は弘化二年 1845 年 この灯籠の建立年代は、赤平として舞台に立った後、1846 年前後であろう。
- 「権之助」・・・七代目團十郎の五男七代目河原崎権之助と思われる。他の息子と少し間を空けて最後に刻まれているのは、生まれてすぐに河原崎に養子に出された為か？ しかし、この後、明治七年に九代目團十郎を襲名することとなる。